

2010年(平成22)11月

カルメル
霊性センターニュース



11月

259号

DE IMITATIONE CHRISTI

キリストにならう

——バルバロ訳——



第一卷

第十九章 よい修道者の修行

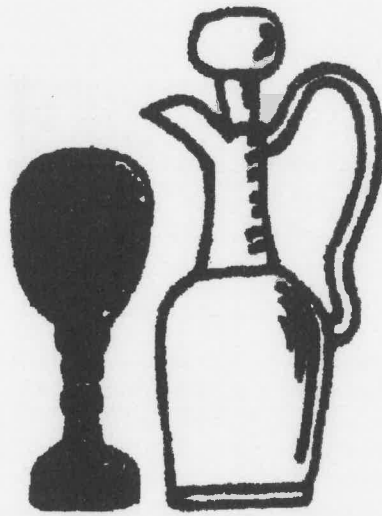
2 決心を貫く

徳の進歩は、私たちの決心いかんにかかっている。真に完徳に進もうとする者は、不断の努力をしなければならぬ。固い決心をしている者さえ怠りがちなのに、ごくまれに、しかも弱い決心しかしない者はどうであろう？決心を怠るのには、いろいろな理由があるが、修行をほんの少し怠ってさえも、その損害を受けずにはいられない。正しい人は、自分の好き勝手ではなく、神の恵みにもとづいて決心をし、何事をはじめるときにも、つねに神に信頼する。人間はさまざまなことを企てるが、はからうのは神である。また「人がどんな道をたどるかは、その人の自由になることではない」(エレミア 10・23)。

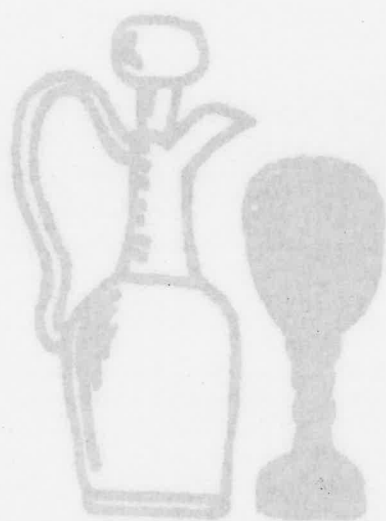
3 信心業

時に、信心のため、または他人の利益のために、平常の修行を怠ることがあるにしても、後でそれを補うのは困難ではない。しかし倦怠のために、あるいは怠慢のために修行をやめることがあると、それは小さくない罪であり、遠からずその害を感じるであろう。できるだけ、そのようなことのないように努めよう。しかし、私たちはいくら努力しても、さまざまなことで過ちを犯しがちである(ヤコブ 3・2 参照)。いつも、何かのはっきりした決心、特に自分を完徳の道から遠ざける欠点について何らかの決心をしなければならない。また同様に私たちのおこないと考えとをよく反省し、導かなければならぬ。なぜならこの二つとも、私たちの霊的進歩にかかわりがあるからである。

心の泉

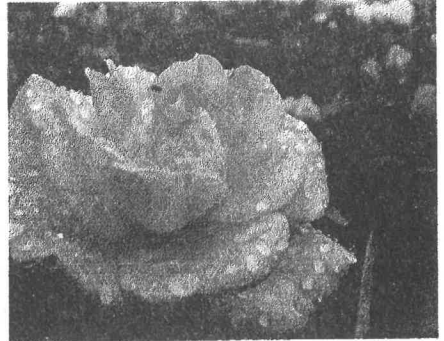


泉の心



無償の祈りとは
神ご自身のためにのみ向かう祈り

なにを願うこともなく
ただ神のためにだけ
そうして
わたしは彼のうちに憩う



—幼きイエスのマリー・エウジェヌ神父 ocd—

バラにとまった小さな虫

長い猛暑の夏でした。一日一日を耐え過ごしたという感じが残ります。やっと実りの秋、収穫の秋の訪れとなりました。さまざまな影響を受けて自然界ではそれなりに、それなりの収穫に恵まれているのでしょうか。わたしたち神の子としての実り、収穫は一体どうだったのでしょうか。

あらためて、神ご自身がいのち、愛の源であることを確認し、その源につながっていることこそが実り、収穫をもたらすことを思い起こさせられます。

祈りは、わたしの中心部に神を探し求めさせます。そこでこそいのちの源である神は、ご自身のいのちを注いでくださいます。

わたしの心の深奥におられ、働きかけられる神はわたしの父。自分のいのちを絶えず注いで、わたしを新たに創り変えてくださいます。*

祈りが大切なのは、祈りによって神のうちに深く浸透するからです。キリストはあなたの住まいです。あなたの生活の外にキリストを追い出してしまうないように。

神との単純な関わりによって、光と力をあなたのうちに満たしてください。*

伊従 信子
ノートルダム・ド・ヴィ

* 『神と親しく生きる いのりの道』
聖母の騎士社、2009

エデンの園 (1)

九里 彰

先日、ある食堂に入ったら、「エデンの園」というかなり長い詩が、横長の大きな額に入って飾ってあった。以前にも入ったことがあるお店だったが、食べる方に気を取られていたのだろうか、まったく気づかなかった。

「エデンの園」と言えば、『創世記』2章8節に、神自らが東の地、エデンに設け、最初の人間アダムをその中に置いたとされる園のことである。一般には、この言葉からは、楽園、パラダイス、天国という言葉が連想される。

一応、キリスト教徒のはしくれなので、何が書いてあるのかとラーメンをすすりながら見ると、内容は深刻であった。「この世の終わり」のことが書かれていたのだ。それも、核戦争とか宇宙戦争とかおどろおどろしい話ではなく、どうやら地球環境が破壊されることによって、人類や地球上に生息しているいっさいの生物が徐々に死にたえて行くという話しのようなのだ。

今年の日本の観測史上最高の猛暑、世界各地の異常気象、極地の氷の融解などからすると、まさに現実味を帯びた内容であった。ちなみに作者は、市田ひろみさんという方で、制作年月日は、2032年7月10日となっていた。

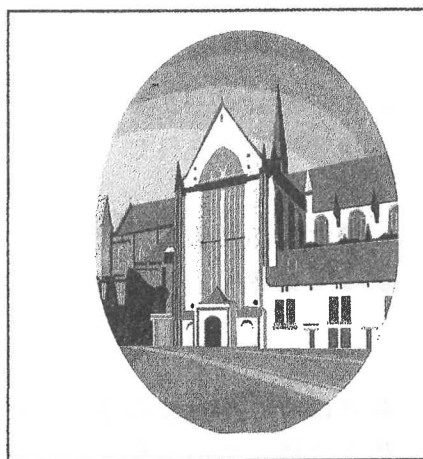
全文を載せることはできないので、少しずつご紹介してみたい。出足はこんな具合である。

アフリカやアンデスで / 貧しく弱い生を
生きている人のことを / 忘れていたわね
私達の送った / わずかばかりのたべものも
とどかなかったのね

作者はクリスチャンで、教会活動の一環として、貧しい国々に食料などの支援物資を送っているのだろうか。経済的に豊かな欧米先進国とアジアアフリカ南米の貧しい発展途上国—この言葉も差別用語っぽいが一の間の、いわゆる南北問題も、解決が叫ばれてから久しい。しかし問題は、それどころではなくなってきたというのだ。

そうよ / それはアフリカやアンデス だけのお話では
なくなって来たのよ

ヘンリ・ナーウエンの 旅路の糧 (137)



教会に単に属するのではなく、教会の中にいること

しばしば私たちは、世に属するのではなく、世の中で生きなくてはならないという意見を耳にします。けれども教会に単に属するのではなく、教会の中にいることは、もっと難しいことかもしれません。教会に単に属するということは、あまりにも多くの教会の仕事や聖職者の「出入り」によって煩わされ、また巻き込まれてしまうために、もはやイエスに集中できなくなってしまうことです。こうして教会は見るべきものに対して私たちを盲目にし、聞くべきものに対して耳しいにしてしまうのです。しかし、キリストが住まい、私たちを食卓に招き、私たちに永遠の愛の言葉を語るのは、まさに教会の中なのです。

教会に単に属するのではなく、教会の中にいることは、靈的に大きな挑戦なのです。

(1023)

教会を愛すること

教会を愛することは、しばしば不可能のように思えます。しかし、私たちは絶えず思い起こさなくてはなりません。教会にいるすべての人々は——有力者であろうと無力な者であろうと、保守的であろうと進歩的であろうと、寛大であろうと狂信的であろうと——主の声に耳を傾け、分かち合うごとに増えて行くパンを共に食べ、感謝と賛美の歌を歌いながら、この涙の谷を歩んで行く、主の証し人のあの長い行列に属しているのです。このことを思い起こすならば、私たちは、こう言うことができるでしょう。「私は教会を愛しています。そこに属していることを幸せに思っています」と。

教会を愛することは、私たちの聖なる務めです。教会へのまことの愛なしに、私たちはその中で、喜びと平和の内に生きることはできません。また教会へのまことの愛なしに、私たちは人々を教会へと呼び集めることはできないのです。

(1024)

(九里 彰訳)

「神は死んだ者の神ではなく、生きている者の神なのだ。すべての人は、神によって生きているからである」(ルカ 20, 38)。

「復活があることを否定するサドカイ派の人々」、彼らは、復活を否定するのみではなく、死後の生命も眼中に入れていません。彼らの眼には、人間が現に生き体験している現実だけが重要でした。このような視野は、死後の世界に想像力、思弁、財力、そして人間を使役していたエジプトやメソポタミアなどの諸民族のそれとはまったく異なるものです。そこでは、一握りの支配者の永遠の生命を保証するために壮大な墓が築かれ、死後の生活を快適にする財宝が蓄えられ、このために、多くの財、特に、多くの貧しい人々、奴隷が酷使されていたのです。これに比べて、サドカイ派の視座はある意味で大変健全なものであると言えます。彼らが日々唱える詩編には、「あなたの慈しみは命にまさる恵み」(詩編 63, 4)とあります。地上の今日の命を、神の慈しみ、神からの無償の恵みとして、また、その神に應える忠実さのうちに生きるなら、生命が死で終わっても、死をも神の愛の中に生きるなら、心悩ませるに足るものではない、と考えています。ましてや、死後の生命を保証するために、想像力の限りを尽くして神話を創作し、種々の財宝を蓄えることも無駄なのです。そのようなことへの配慮や不安、思弁、活動に活力を使い果たすよりは、地上の日々の命を神への応答として生きることに関心を集中させる、これが大切であり、死の後のことは、わたしたちには測り難い神の配慮に安心して任せればよい、このように人々は考えていたのです。

イエスの視座は、サドカイ派の見方をも凌駕します。イエスの眼差しは、律法を遵守できる人々を中心にではなく、この地上では価値がないと思われる「小さい人」、「貧しい人」、「罪人」を招き、中心に据え、新しい展望、未来、生命を与える神の誠実な愛、死から命へと移す愛を宣言することで始まります。復活も、この福音の宣教の展望の中でのみ理解されます。復活は、人間の狭い、また罪に汚れた知恵での思弁の対象ではなく、今日、地上で出会うすべての人を、死をも凌駕する神の誠実な力強い愛に支えられている命として認め、育み、包んで、新しい生きる地平を生きようとする者たち、今日の命で神の愛の命に連なろうとする者たちの前に開かれてくるものなのです。十字架の死に至るまで、イエスと視座を共に生きようとする者たちが、日々深く入ってゆく現実、それが復活、神の命なのです。 ルカ渡辺幹夫

***** みことばのひびき *****

年間第33主日 (C年) (ルカ 21:5~19)

“惑わされないように気をつけなさい” “おびえてはならない”

今日は、典礼年最後の主日なので、福音は世の終わりに起る様々の恐ろしいことを述べ、私たちを狼狽させます。これはまた次の、待降節第一主日のテーマを準備しています。ルカの福音は私たちの心を暗くします。再び、イエスは弟子たちに、誤った見方、神殿の崩壊や宗教家たちの奉納物のもろさを指摘されました。“一つの石も崩されずに他の石の上に残ることのない日が来る。全ては破壊されるであろう”

主と真に出会った人は、基本的な確信をもって歩み始めます：わたしたちの神は神殿や奉納物を必要としません。世を離れて聖なる場所に閉じこもることはありません。主は、聖書の別の個所で“この神殿を壊せば、わたしは三日でこれを建てる”と断言されています。確かにこれは主ご自身の復活について言うておられるのですが、神秘体の一員である私たちも同じ経験をするように招かれています。私たちには、死ぬ前に壊すか離れなければならない神殿があります。私たちは、神についての異教徒的な認識を改め、いつでも何処でも私たちに愛を注ぎ、わたしたちと親密でありたい神を知ることに関心を向けねばなりません。この直観的、霊的な感覚は、わたしたちの理性によるものではなく、聖霊の啓示、蘇られたキリストの賜物です：“わたしは再び建てる” 私たちは生きている石であり、全ての人は新たに組み立てられた建物の中に自分の居場所があることを知るのであります。

この新しい建物の中に入ることは、この世の人々の生活環境の外に自分を置くことではありませんし、人生の困難から自分を防御するものでもありません。ルカ福音書のこの部分にはテレビのニュースのようなあらゆる災難、災害が示唆されています：啓発された指導者たち、戦争、地震、疫病、宗教裁判や罪のない人々を襲うタリバンたち。これに立ち向かうために、イエスは二つの忠告をされました；“惑わされないように気をつけなさい” “おびえてはならない” 用心深く信頼を持って生きるならば、過ぎ去る物に心を奪われません。人は今日建てられる物、新しく建て直される物、新たに見出される物を認めることが出来ます。

神の国は常に築かれています：イエスはそれを私たちに、自由に発展させるために与えられます。神は私たちに信頼しています。“忍耐によって、命を勝ち取りなさい” 私たちがすべき事は、反逆、あざけり、迫害の中でキリストを証しすることです。イエスは私たち皆に語り続けます。私たちの大切にしているキリスト教的な道徳原理を嘲笑し、自己満足、自己中心を祭りあげるメディアを相手どって戦う私たちに語り続けます。物質主義、自己中心の世にあって、主のため、神の国のため、キリスト的生活のために立ち上がるよう主が懇願されるのは、恐るべき事です。これは、今日のキリスト者皆の前に提示された挑戦です。

(Sr. Paulina)

「はっきり言うておくが、あなたは今日わたしと一緒に楽園にいる」(ルカ 23, 43)。

この言葉は、「イエスよ、あなたの御国においでになるときには、わたしを思い出してください」との言葉と共に罪にまみれた生涯を樹の上で閉じようとする犯罪人の一人に、同じように樹の上で死んでゆかれるイエスが語りかけられたものです。しかし、思い起こせば、この場面で、この犯罪者は、どのような思いを胸に抱いて死んでゆこうとしていたのでしょうか。「ある人が死刑にあたる罪を犯して処刑され、あなたがその人を木にかけらば、・・・木にかけられた死体は、神に呪われたもの」(参照申命記 21, 22-23)、この言葉が彼のうちに響いていたと、想像できます。永遠に神に呪われ、約束の地には入れない、この思いにとらわれていた人の耳と心に、イエスの言葉は響くのです。イエスの言葉は、旧約の律法中でも重要なものであった「申命記」の言葉さえも覆す、力あるもの、まったく新しい地平を切り開く力強いものなのです。創世記のはじめに、「神は言われた。『光あれ。』こうして、光があった」(創世記 1, 3)との創造の言葉、混沌と無秩序に平安をもたらす何ものも反抗することができない創造の言葉に匹敵する、力のこもった言葉です。「あなたは今日わたしと一緒に楽園にいる」。今、現に、あなたとわたしが共にしている親しい交わり、その支配の及ぶところからあなたを奪うものは何もない。わたしが創造してきた愛の交わり、わたしの愛の支配を、いかなる勢力も破壊し、取り去ることはできない、との宣言です。このイエスの愛の支配の栄光に打ちのめされたもう一人の罪人が書いています。「わたしは確信しています。死も、命も、天使も、支配するものも、現在のものも、未来のものも、力あるものも、高いところにいるものも、低いところにいるものも、他のどんな被造物も、わたしたちの主キリスト・イエスによって示された神の愛から、わたしたちを引き離すことはできないのです」(ローマ 8, 38)。

わたしたちは、今も、「罪と罪が造り出したもの」の混沌の中に戦っています。しかし、もはや、わたしたちは自分の善意、能力で孤独のうちに戦っているのではなく、王であるキリストが、わたしたちを日々忘れることなく思い起こしてくださり、そして、わたしたちの内に注いでくださる「十字架の勝利の力」、力強い言葉によってなのです。 ルカ 渡辺幹夫

***** みことばのひびき *****
待降節第1主日(A)

「だから、あなたたちも用意しているがよい。

思わぬ時に人の子は来るからである」 (マタイ24・37~44)

本日教会の一年が待降節と呼ぶ時期で始まります。これはおいでになる人を受け入れる準備の時です。私たちは誰がおいでになるか知っています、キリストです！キリストが最初の来臨であるクリスマスに来られるときに受け入れる準備をするように、そして再び世の終わりに(第二の、最後の来臨と呼ばれる)キリストがおいでになるときキリストを受け入れる準備をするように教会は招いています。

しかし、このキリストの最初と最後の来臨は、決してキリストが人類を訪れる唯一のものではありません。農夫は種を蒔き、収穫を刈り入れるときに畑に出かけて行くのに制限をしません。農夫にとって畑は非常に大切ですから、毎日畑に行きよい収穫を得られるようにあらゆる注意をします。祈りでキリストに頼るとき、神の言葉を読んだり聴いたりするとき、ミサを祝うとき、キリストも私たちを定期的に訪れます。キリストは私たちの人生のあらゆるでき事において訪れてくださいます。私たちの人生のでき事は悲しいことでも喜ばしいことでも、それぞれキリストの私たちへの訪れです。

「神は実に全ての人々が救われるのを望まれます」。これは本日の聖書の最初の箇所が伝えるメッセージです。神はイスラエルの民のために多くの驚異を行われたので、多くのユダヤ人は自分たちだけが救われ、残りの人類は滅びる運命にあるという間違った結論に達しました。神は幻を通して預言者エリヤを照らし、神はユダヤ人だけでなく全ての人を愛し、救いの道はあらゆる人に開かれていることをエリヤに知らせました。そして、ローマのキリスト教徒にパウロは何を語っているのでしょうか？パウロはローマの人々に「時は来ている」と告げます。いつであるとパウロは告げているのでしょうか。キリスト教徒の全人生が来臨するキリストと出会う時であり、キリストに救われる時です。救われるために来年とか、来月とかを待つべきではありません。まして、明日を待つべきではありません。キリストはいつでも私たちを救い続けておられます。私たちが話したり、聞いたり、分かち合ったりしていようと、キリストはまさに今私たちを救ってくださっています。しかし私たちの救いの働きはキリストの働きだけではありません。それは、私たちの働きでもあるべきです。このことをパウロは「夜の時」と「昼の時」のコントラストによって説明しています。パウロにとって「夜の時」は人々が罪を犯す時の象徴であり、「昼の時」

は私たちが善をおこなう時を表しています。私たちが洗礼を受けるとき新しい日が明けます。新しい日はキリスト教徒の人生において常に「昼の時」であるべきです。再び「夜の時」に戻るべきではありません。常に善をおこなう時であり悪を行う時ではありません。

注意すべきはキリストだけです。キリストはノアの時代に起こったことを思い起こさせます。洪水が起こり全ての人を滅ぼすまで、人々はのんきに飲んだり、食べたり、結婚し続けていました。この世もまた終わりになるのですから、私たちは彼らより賢くしなければならぬとイエスは言われます。私たちは福音書を読み誤ってはなりません。私たちは救いという収穫を収める瞬間を待って、人生を注意深く、活動的に喜びをもって過ごすようにキリストは望まれます。収穫はキリストと私たち両者のもので、喜びも同様です。「イエス・キリストを賛美しなさい」。

キリストにおける私の愛する兄弟、姉妹の皆さんへ、恵み豊かな聖なる待降節でありますように。
(Sr. Paulina)

…ケリトの水にうるおされて…

カルメルの聖人たちの祈り

22. 十字架の聖テレジア・ベネディクタ(エディット・シュタイン) (1891-1942) — その9

エディット・シュタインは、1891年10月12日、ドイツ・ブレスラウの敬虔なユダヤ人家庭に、11人兄弟の末娘として生まれた。この日は、その年のユダヤ教の暦では、「贖罪の日」に当たっていた。10代の頃に無神論者となったが、学業優秀であった彼女は、著名なフッサールのもとで哲学を学び、現象学を研究、博士論文は『感情移入の問題について』であった。1921年、友人宅でたまたま手に取ったアビラの聖テレジアの『自叙伝』を一晚で読破、これこそが真理であると確信し、1922年1月1日、カトリック教会で受洗。1933年10月14日、ケルン・カルメル会に入会し、「十字架のテレジア・ベネディクタ(十字架に祝されたテレジア)」という修道名を受ける。後に彼女は語っている。「十字架ということを、私は当時誰の目にも明らかになりつつあった神の民の運命として理解しました。キリストの十字架の意味を知っている者は、すべての人々の名において、その十字架を担わなければならないのだと考えたのです。」

ユダヤ人迫害激化のため、オランダのエヒト・カルメル会に移るが——彼女は、姉妹たちを危険に陥れなくなかったのである——、カトリックの洗礼を受けていた姉のローザとともに逮捕された。真の平和のためのいけにえとして、また、イスラエル民族のための犠牲として、自己をイエスの聖心に奉獻し、1942年8月9日にアウシュビッツで殉教者としてその命を捧げた。ユダヤ人移送列車と強制収容所内で Sr.テレジア・ベネディクタを目撃した人々は、彼女が平静であったこと、子供たちの世話をし、平和の雰囲気の人々にもたらしていたことを証言している。

『十字架の学問』をはじめとする数多くの深遠な著作を書き残し、それらは多くの言語に翻訳されている。1987年5月1日列福。1998年10月11日列聖。1999年10月1日、スウェーデンの聖ブリジット、シエナの聖カタリナとともに、ヨーロッパの守護の聖女として宣言される。



十字架の聖テレジア・ベネディクタ (エディット・シュタイン)

—— 祈り ——

父なる神に

祝福してください、
苦しむ人々の深い苦悩に満ちた心を、
深淵に沈む靈魂たちの重い孤独を、
人類の不安を、
姉妹のように親しい靈魂にも打ち明けることのできない悲しみを。

暗闇の道を祝福してください、
恐れることなく未知の道を進むことができるように。
臨終の床にある
人々の苦しみを祝福してください。
愛なる神よ、彼らに平和で祝された最期をお与えください。

すべての心を、苦しみの雲に覆われた心を祝福してください、主よ、
特に、病む人々に癒しをもたらしてください。
苦悩のうちにある人々に平和をもたらしてください。
最愛の人を葬らなければならなかった人々に、
忘れることを教えてください。
罪悪感の苦悩のうちに取り残される人が、この世に誰もいませんように。

喜びのうちにある人々を祝福してください、おお主よ、
彼らをあなたの翼のかけで守ってください。
私の嘆きの衣を、あなたは決してお取り去りになりませんでした。
私の疲れた両肩は、時に重い荷を担います。
けれども、私に力をお与えください、そうすれば私は
それを償いのために死に至るまで運ぶでしょう。

そして私の眠りを、すべての死者の眠りを祝福してください。
あなたの御子が、死の苦悶のうちに私のために忍ばれた苦しみを思い出してください。
人類のすべての必要に応えてくださるあなたの大きな慈しみによって、
すべての死者が、あなたの永遠の平和のうちに憩うことができますように。

* * * * *

この記事は、跣足カルメル在俗者会員ペニー・ヒッキー氏が編集された Drink of the Stream: Prayers of Carmelites (Ignatius Press, San Francisco, U.S.A., URL <http://www.ignatius.com>) の中から、出版社の許可を得て、抜粋・邦訳したものです。

(注) タイトル中の「ケルトの水」とは、主が預言者エリヤに言われた、「ここを去り、東に向かい、ヨルダンの東にあるケルトの川のほとりに身を隠せ。その川の水を飲むがよい。わたしは鳥に命じて、そこであなたを養わせる(I 列 17:3-4)」ということばに由来しています。

(泰阜カルメル会訳・編)

意匠としての魚がキリスト者のシンボルとされることは、周知のことです。

「わが救い主 イエズスキリスト」の文節の頭文字を並べると、「魚」という単語になるということで、かつてのキリスト教迫害の時代にキリスト者を表わす暗号としての役割を果たしていたとききます。

魚はデザインとして見たとき、なかなかの趣あるもので、さまざまな形の魚をアクセサリやその他の装飾品として数多く目にします。

私も或る時期この「魚」というものに気合が入ってしまい、いろいろ集め、身につけたりしていて、釣りの会の会員ですかと訊かれたりしました。そこに、又、非常に猫好きの友人がいて、こちらは魚ならぬ猫のブローチを猫愛好の証としていつもつけていたので、私は隣に並ぶのが何とも居心地の悪い思いをしたものです。

私の身の上とすれば十字架でもいいのですが、しかし、十字架はそのフォルムのあまりの美しさ、邪魔なものは何一つないシンプルの極み、この上ないバランスの安定感、誰がどのような気分で身につけようとも必ずその人の身にそぐものとなり、間違っても刑具のことなどに考えが及ぶ筈もなく街中に溢れているのが現状です。それ故にキリスト者の身の上のしるしとは却ってなり得ないとも思ってしまうのです。

メダイやロザリオの類はバッグなどにつけたりするのですが、いつぞや小さなロザリオの指輪をはめていて、カトリックですねと見ぬかれました。当然ここは見ぬく方もカトリックなのですが。

社会、街中周辺を見渡せば、例えば学校の制服、校章、飛行機や船や電車の乗務員服などなど、身分を表明しているものはたくさん目にするようになります。神父さま方のローマンカラーや修道女方の服装もひと目でそれとわかる身分の表明であり、更にはお坊さまの法衣同様に自身の信教の表明でもあります。

このように今、身の上を証するしるしのことをあれこれと思考えめぐらしますが、実は信教の自由を謳う世の中でありながら、私たちは神父さま方や修道女方のように自分の信教を公にすることには、消極的というよりもっと云えばむしろ避ける気持ちの方が大きいのではないかと思っています。

ご近所はおろか親戚縁者にも知られていないということの方が、もしかしたら通常であるのかもしれませんが。

一方、世の中の方も例えば公民館などの使用について宗教と政治はお断りなのです。宗教それ自体はどの宗教も普遍を要としながらも、ひとつひとつは徹底したプライベートであり、それぞれが各々に息づき身を立てているようです。「告げ知らせよう」と誓い、しかし、身の上を公にはせずしてなされる愛の行いも世の中にはきっとたくさんあることでしょう。

名もなく美しくという謂いを私も好きです。

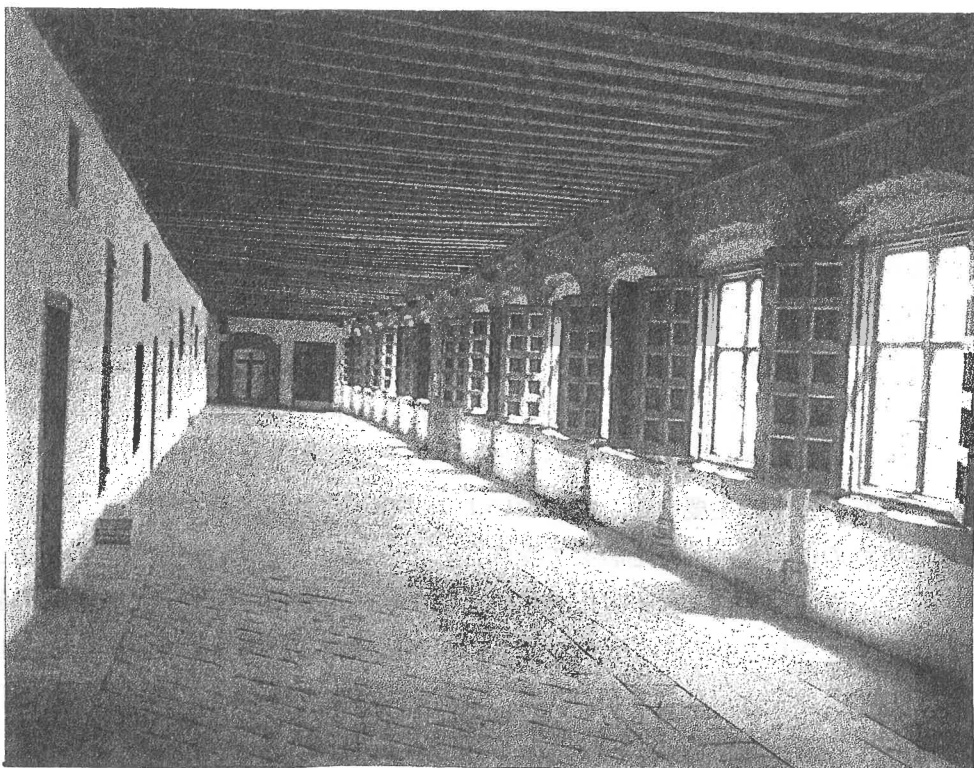
そういうなかで、作家の遠藤周作氏は自他共にカトリック教徒であることを世界中に確と宣しその生涯を全うされました。文字通りいのちをかけて生涯をかけて真摯に誠実に限りなくキリストを問い続けるその姿を、私は作品とともに深く敬愛するものですが、カトリックの身分をゆるぎなく確と名乗るということでは特例であるのかもしれない。

世に名を知られた方々についても、私たちは何かの拍子にキリスト教徒であることを知ったりするのですが、信教とは、その個人にとっての身の上を表わす何が何でもの主要なことではないように感じられることです。

生涯の終わりに上野毛教会で受洗されたと伺った加藤周一氏も、その逝去は日本の偉大な知性の喪失と惜しまれ、悼まれて、新聞、テレビなど幾多の特別報道がなされましたが、受洗に関しての言及は私はひと言も目にしたことはなかったのです。なぜなのだろう、首をかしげる小さな子どものような心細い思いでの素朴な疑問です。

身の上のしるしと云うのなら、この魂に刻印されたキリストの受肉、受難、復活がすべてです。しかしながら、届き得ない切なさ、それでも刻印の深みから立ちのぼる激しい内なるよろこびの覚えとして、魚や十字架の形を身に置くとすれば、それは、届こうとして身体をのぼす私のしるしよりも、その私をいつもいつまでも抱きとっておられる主イエズスキリストご自身、愛といつくしみのしるしであることを、あらためて確かめるのです。

秋のおとずれを感じる夜、小さな「魚」や「十字架」を手に遊びつつ、こんなことにじっと思いを凝らして時が過ぎました。



Avila. The Incarnation. The cloister corridor. Teresa of Jesus and John of the Cross frequently passed through it. Perhaps no monastery ever enjoyed the simultaneous presence and teaching of two saints like these two reformers of Carmel.

十字架の聖ヨハネ こぼれ話 (41)

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

グラナダ (1)

聖人がグラナダの院長であった時、数人の女性が、ヨハネ修士には子どもがいると言って、誹謗しました。このことが聖人の耳にも入りました。それによって、彼は「当惑することも取り乱すこともありませんでしたが、返答しなくてはならないと考え」、ガリシア人やアイルランド人、すなわちケルト人がするように、次々と質問をして、これに答えました。

彼はこう質問しました。

「さてあなたがたは、だれが母親だと言っているのですか」。

彼女たちは、それはある未婚の婦人で、非常に高貴な両親の娘であると答えました。

さらにたずねました。

「そのご婦人は、どこからグラナダへいらしたのですか」。

彼女たちは、その女性はその土地の生まれで、町から遠く離れたことはいまだかつて一度もないと答えました。

第三の質問はこうでした。

「で、その赤ん坊はいくつですか」。

彼女たちは、一歳前後だと答えました。そこで聖人は答えました。

「それでは、その子は奇跡の子です。なぜなら私がこの地へ来てそんなにたっていないし、一度も私はこの地へ来たことがなく、ここからはるか遠くに住んでいたのですからね」。

こうして話が嘘であると、彼は結論づけました。「それを認め、肯定した人は、嘘をついたがゆえに、恥じ入りましたが、彼はまったく何ごともなかったかのよう
に、平和なままでした」。大体このように、十字架のヘロニモ修士は彼の証言の一つ中で語っています。他の証言においても、同じことを言っていますが、もう少し脚色されています。聖人は、女子カルメル会の修道院に着くと、この出来事をみんなに、話し「大笑いしながら」過ごしました。それは、まったく当然のことでしょう。

(続く)

いのちの言葉 10月

隣人を自分のように愛しなさい。

(マタイ 22・39)

このみ言葉は、旧約聖書の中にも見られるものです。(＊1)

イエスを試そうとして質問をした人に対し、イエスは、神の掟を探求してきた旧約の預言者たちとユダヤ教の教師たちの教えを用いて、お答えになりました。実際、当時のユダヤ教の教師、ヒレルは、次のような言葉を残しています。「自分にしてもらいたくないことは、隣人にもしてはならない。これこそ律法を全うする掟である。他のことは、これの説明に過ぎない」(＊2)と。

ユダヤ教の教師たちは、隣人への愛は、神様への愛から生まれるもの、ととらえていました。神様は人をご自分の似姿に造られたからです。神様から造られたものを愛さずに、神様ご自身を愛することはできないわけです。これは「なぜ隣人を愛するのか」に対する真の答えであり、「律法の中でも、すべての人にあてはまる偉大な教え」(＊3)とされていました。

イエスはこの教えを強調しながら、次のようにおっしゃいます。「隣人を愛しなさい」という掟は、「心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして神を愛しなさい」という最も重要な第一の掟と同じくらい大切だ、と。こうしてイエスは、二つの掟をしっかりと一つに結ばれ、これはキリスト教の中で変わることなく継承されていきました。使徒ヨハネも、次のように簡潔に記しています。「目に見える兄弟を愛さない者は、目に見えない神を愛することができません。」(＊4)

隣人を自分のように愛しなさい。

さて、福音全体がはっきりと語っているように、「隣人」とは、男性、女性、友人、敵の区別なく、すべての人を指します。私たちはその一人ひとり尊重し、大切に、敬う必要があります。隣人への愛は「普遍的」であると同時に「個人的」な

ものです。この愛は「すべての人」を包み込むものであると同時に、「自分のすぐそばにいる人」に対して、具体的に表されるものだからです。

しかし、これほどの広い心を私たちに与えてくれるのは、誰でしょうか。自分とは全く関係のない人々をも、「隣人」すなわち「自分に近い人」として感じ、自愛心を乗り越えて、相手を自分のように愛することを可能にする慈しみの心を、私たちは誰から受け取ることができるでしょうか。

その愛は、神様からいただく賜物です。いえ、むしろ、神様の愛そのものと言えるでしょう。「わたしたちに与えられた聖霊によって、神の愛がわたしたちの心に注がれている」(＊5)と記されている通りです。

この愛は、一般的に言われる愛とは異なり、単なる友情や博愛を指すのでもありません。これは、洗礼の時以来私たちの心に注がれている愛で、神様の命、三位一体の命そのものだと言えるものです。私たちは、この愛にあずかって生きることができます。

愛こそ、すべてです。しかし、この愛をよく生きるためには、それがどのような特徴を備えているか、知っておく必要があるでしょう。福音や聖書からその特徴を汲み取ることができ、いくつかの要点にまとめることができます。

第一に、イエスはすべての人のために命を与え、すべての人を愛されました。それによって、真実の愛とはすべての人に向けられるものであることを教えてくださったのです。この愛は、私たちがよく抱くような、単に人間的な愛とは異なります。私たちの愛は、家族や友達、近所の人など、一定の人に限られることが多いのですが、イエスが教えてくださった真の愛は、人を分け隔てしないものです。この人は感じがいい、あの人はいやだ、きれいだ、見た目がよくない、大人だ、子供だ、というふうに区別しません。この愛の前では、自

国の人、外国の人、自分の教会、他の教会、同じ宗教、違う宗教の人、などという見方はなくなります。皆を愛する愛だからです。私たちもこのように、すべての人を愛してみましょう。

また、真の愛は、自分から先に愛するものです。普通私たちは、自分を愛してくれる人を愛するのですが、この愛は相手から愛されるのを待つことなく、自分の方から一歩を踏み出します。私たちがまだ罪人であった時、つまり、まだ愛することをしていなかった時に、御父は私たちを救うため、御子を送ってくださいました。

ですから「すべての人」を愛し、「自分から先に」愛することです。さらに真の愛は、隣人一人ひとりの中に「イエスを見る」ものです。イエスは最後の審判の時、私たちにおっしゃるでしょう。「あなたはそれを私にしてくれた」(*6)と。私たちが隣人に対して善いことをしても、悪いことをしても、イエスはこうおっしゃるでしょう。

また真の愛は、友を愛するだけでなく、敵をも愛します。敵に善を行い、その人のために祈ります。

そしてイエスは、ご自分が地上にもたらされた愛が、「相互のもの」となるよう望んでおられます。私たちが互いに愛し合い、一致に至るように、です。

以上のような愛の特徴は、今月のいのちの言葉を理解し、それを生きるための助けとなるでしょう。

隣人を自分のように愛しなさい。

確かに真の愛は、他の人を自分と同じように愛するものです。これを文字通り生きてみましょう。隣人を自分と同じように考え、自分に対してするであろうことを、相手にもしてあげることです。真の愛は、苦しむ人と共に苦しみ、喜ぶ人と共に喜び、相手の重荷を共に担うことを知っています。それは、聖パウロの言葉を借りれば、愛する相手と自分を一つにすることです。ただ感情的で言葉だけの愛ではなく、具体的な行いを伴う愛です。

他の宗教を持っておられる方も、このように生きることができるのではないのでしょうか。「黄金律」と呼ばれる教えは、あらゆる宗教の中に見られ、「自分にしてもらいたいことを、他の人にもしてあげなさい」と教えているからです。ガンジーも、大変シンプルな言葉で分かりやすく、これを説明しています。「私があなたに悪を行うなら、自分自身を傷つけることになる」(*7)と。

では今月は、隣人への愛を改めてよく生きるよう努めてみましょう。隣人といっても、実にさまざまな人が含まれます。近所の人、クラスメート、友達、親戚の人などもそうですし、世界中で苦しみにさいなまれている人々も入ります。彼らは、戦争や自然災害の地から、テレビを通じて私たちの家に運ばれてくる「隣人」です。一昔前ならば、自分とは関係のない、遠い国の人たち、と思って終わっていたことでしょう。でも今は、彼らも、私たちの隣人となったのです。私たちに何ができるかは、時に応じて、愛が教えてくれるでしょう。こうして私たちの心は少しずつ、イエスの心の大きさにまで広げられていくでしょう。

キアラ・ルービック

* 1 レビ記 19・18

* 2 *Talmud Babilonese Shabbat*, 31a.

* 3 Rabbi Akiba, cit. in *Sifra, commentario rabbinico a Lv 19,18*.

* 4 ヨハネの手紙 14・20

* 5 ローマの信徒への手紙 5・5

* 6 マタイ 25・40

* 7 WILHELM MUHS, *Parole del cuore*, Milano 1996, p.82. 参照

フォコラーレの創立者キアラ・ルービックが、2008年3月14日に帰天した後、彼女が過去に残した解説を「いのちの言葉」として取り上げます。今月の言葉は、1999年10月に発表されたものです。

★ いのちの言葉は聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。

いのちの言葉の集い

東京近辺の各地でいのちの言葉を読み、生活の中で実践した体験の分かち合いをしています。ご興味のある方は下記までご連絡ください。

連絡先

フォコラーレ: 03-3707-4018/03-5370-6424

E-mail: tokyofocfem@ybb.ne.jp

ホームページ: [フォコラーレ](#)で検索

<http://www.geocities.jp/focolarejapan/focolaresito>

新刊紹介



●イエスの聖テレサ—霊的な人々の母（新刊）

聖テレサを知るための『入門書』。本書は、世界的な聖テレサの研究家である著者が描いた聖テレサの生涯、人となり、著作や思想を年代順に様々な角度から、きわめて総合的にそして興味深く語っている。祈りを通して、神と出会い、本当の自己を知るに至った聖テレサの生涯は、多くの人に各自の心の内奥の真の「自己認識」へと至るためのヒントを与えてくれる。聖テレサを知るための、またとない好著である。

定価：1,155 円（税込み）

著者：トマス・アルバレス

訳者：松田浩一 神父（カルメル修道会司祭）

判型：B6 判並製

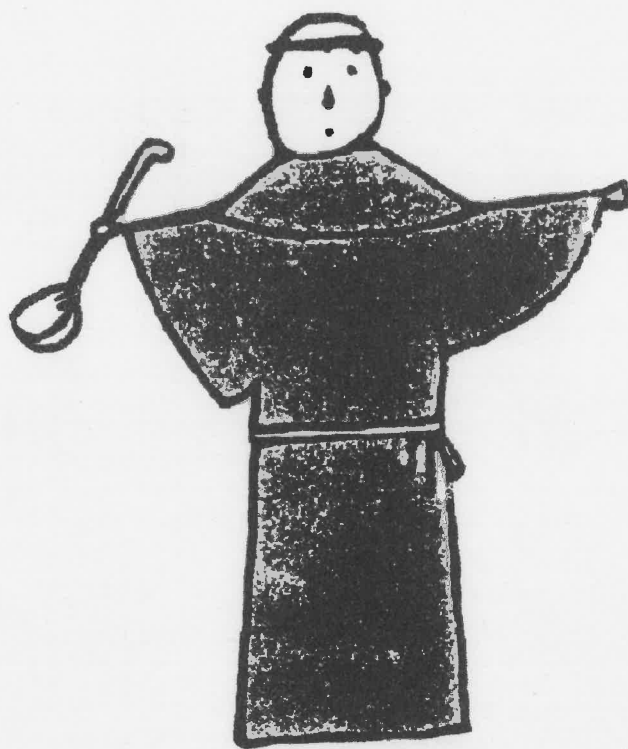
ページ数：188 ページ

ISBN：978-4-8056-0473-1

発行：サンパウロ

カトリック書店：サンパウロ、ドンボスコ書店等でご購入できます。

カルメル会の企画案内



上野毛靈性センター ‘10年11月～’11年3月黙想企画 ** 聖テレジア修道院（黙想） **

1. 一泊聖書深読 新井延和神父

2010年 (毎回 金曜日 夕食～土曜日16時)

④ 11月12日～13日

①、②、③ 終了致しました。

2. 奉献生活者のための黙想会

2010年

D 11月 2日(火) 夕食～11月11日(木) 朝 福田正範神父

E 12月27日(土) 夕食～ 1月 5日(水) 朝 中川博道神父

A、B、C 終了致しました。

3. 木曜黙想会 (毎回木曜日 10時～16時)

2010年間共通テーマ 《道》

11月18日 神の国への道 ベルナルド神父

1月20日 荒野をゆく道 中川博道神父

4. 金曜黙想会 カルメルの聖人 (毎回金曜日 10時～16時)

2010年

10月29日 アビラの聖テレジア ベルナルド神父

12月17日 リジューの聖テレジア 今泉 健神父

2011年 2月25日 十字架の聖ヨハネ 中川博道神父

5. 青年黙想会 (男女)

中川博道神父・福田正範神父・神学生

11月20日(土) 16時 ~ 23日(火) 14時

6. 祭日のミサに与かるために

【クリスマス】・・チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時
2010 12月24日(金)~25日(土)《講話なし、夕食なし》

7. 待降節黙想会

2010/12月 3日(金) 夕食なし~5日(日) 昼まで 指導:カルメル会士



電話でのお問い合わせは午前9時から午後4時45分までをお願いします。
またお申し込みは電話でもお受けしますが、間違いを避け、時間も問いません
のでなるべくFAX・はがき・Eメールでお願い致します(お返事はいたします)

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

聖テレジア修道院(黙想)

TEL 03-5706-7355

FAX 03-3704-1764

e-mail:mokusou@carmel-monastery.jp

聖書深読黙想会

<一泊>

聖書は、いろいろな方法で読むことができます。
指定された主のみ言葉を、幾人かと共に読み、それを互いに分かち合います。
聖霊の照らしを受けながら、自分に語られる主のみ言葉を深く味わい、共に交わる人々と、お互いに心を養う機会としましょう。神と人に心を開くことは、福音を生きることです。皆様のご参加をお待ちしています。

* 日時：2010年11月11日（金）18時～13日（土）16時

（曜日が金曜～土曜日となりましたのでご注意ください）

* 場所：カルメル会聖テレジア修道院黙想・黙想の家

* 指導：新井延和師（カルメル会司祭）

* 会費：¥7000

* 持ち物：筆記用具、洗面用具、パジャマ

（タオル、バスタオルは、各部屋に備えあります）

聖書、祈りの本は、黙想の家にあります。



参考書：「聖書深読法の生いたち」（奥村一郎著 ¥1050）

ご希望の方は、黙想の家でお求め下さい。



お問合せ・お申込は、TEL、FAX、ハガキにてお願いします。

〒158-0093 世田谷区上野毛 2-14-25

カルメル会聖テレジア修道院(黙想)

Tel.03-5706-7355

Fax.03-3704-1764

一日黙想会



金曜黙想会・・・カルメルの聖人

アビラの聖テレジア

10月29日(金) 10:00~16:00



木曜黙想会・・・神の国への道

11月18日(木) 10:00~16:00

指導：ベルナルド師(カルメル会司祭)



ベルナルド神父



* お問い合わせ：TEL. 03-5706-7355

* お申込み：FAX、Eメール、または、はがきにてお申込み下さい。

FAX. 03-3704-1764

Eメール：mokusou@carmel-monastery.jp

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25

カルメル会上野毛聖テレジア修道院(黙想)

カルメル青年黙想会

「テレーズ 信頼の道」



- 日時： 11月20日(土)16時 ~23日(火)14時
※土日のみなど部分参加も可(応相談)
- 場所： カルメル会聖テレジア修道院(黙想)
(東急大井町線上野毛駅下車)
- 対象： 青年男女(35歳まで)
- 定員： 20名
- 費用： 一般 12,000円 学生 7,500円
- 締切： 11月13日(土)<必着>
- 指導： 中川神父・福田神父・神学生

※住所・氏名・性別・年齢・電話番号・所属教会名を記入し、
ハガキ・FAX・Eメールのいずれかで下記まで。
折り返し、こちらよりご連絡させていただきます。

158-0093 世田谷区上野毛2-14-25
カルメル会聖テレジア修道院(黙想)
電話 03(5706)7355
FAX 03(3704)1764
Email: mokusou@carmel-monastery.jp

降誕祭のミサにあずかるための黙想

* 日時： 12月24日（金）夕食なし～25日（土）朝食語 10時まで
24日（金）は、午後3時より入室できます。

講話は、ありません。

夜半のミサより主のご降誕（日中のミサ）にかけて
主イエス・キリストのご降誕を黙想し、静修の時を過
ごしましょう

* 費用： ￥4000

* お問合せ、お申込みは、上野毛聖テレジア修道院（黙想）

電話：03-5706-7355・FAX03-3704-1764





「カルメルの靈性に親しむ」

—カルメルの靈性をとおして イエスとの出会いの道を探します—

担当：中川 博道（カルメル修道会）

どなたでも いつからでもご参加ください

2010年～2011年 予定表

場所：カトリック上野毛教会（信徒会館）

朝のクラス（火曜日）

夜のクラス（金曜日）

《10:30～12:00》

《19:15～20:45》

2010年	11月9日	11月12日
2011年	2月22日	2月25日

<お問い合わせ：carmel-reisei@hotmail.co.jp>

聖書講座

「キリストとの親しさ」

—出会いの神学—

キリストと出会った人々の姿を 聖書をとおして迎えます

担当：中川 博道（カルメル修道会）

どなたでも いつからでもご参加ください

2010年～2011年 予定表

場所：カトリック上野毛教会（信徒会館）

朝のクラス（火曜日）

夜のクラス（金曜日）

《10:30～12:00》

《19:15～20:45》

2010年 12月 7日	12月 10日
2011年 3月 15日	3月 18日

<お問い合わせ：carmel-reisei@hotmail.co.jp>



「キリスト教の基本を学ぶ」

—洗礼準備の為、又キリスト教の基本を学びなおす為に—
対象：どなたでもご参加ください

指導：中川 博道 (カルメル修道会)

場所：カトリック上野毛教会 (信徒会館)

朝のクラス ≪10:30~12:00≫ 夜のクラス ≪19:30~21:00≫

いずれも金曜日

	月日	テーマ	聖書箇所
7	2010年 9月17日	「人間の問題性からの脱出」 聖書のライトモチーフとしての「脱出」というテーマ	出エジプト記 1章~3章
8	10月8日	「人間の問題性に関わる神の本質」 神の名前	出エジプト記 3章 14節をめぐって
9	10月22日	「イエス・キリストに出会う」 最初にイエスに会った人々	ヨハネ 1章 35節~42節
10	11月5日	「福音が語るイエス・キリスト」 天地人への関わりを愛において生きるキリスト	
11	11月19日	「イエス・キリストの自己理解」 イエスが伝えたいもの	マルコ 10章 45節
12	12月3日	「キリストに近づく」 —洗礼と永遠の命—	ヨハネ 3章 1節~21節
13	12月17日	「教会；キリストに呼び集められた人々の集まり」(1) キリスト者の原型としてのマリア	ルカ 1章 26節~38節
14	2011年 1月7日	「教会；キリストに呼び集められた人々の集まり」(2) 教会共同体の原型としてのエリザベトとの出会い	ルカ 1章 39節~56節
15	1月21日	「キリストと共に生きる道」(1) 荒野に生きる道を探して	出エジプト記 20章 申命記 5章
16	2月4日	「キリストと共に生きる道」(2) 現代における生き方の模索	マタイ 6章 12節
17	2月18日	「キリストと共に生きる道」(3) 十戒の意味を探して	
18	3月11日	「主の祈り」 主と共に生きる道	マタイ 6章 5節~15節
19	3月25日	「キリスト者の基盤」	使徒言行録 2章 42節
20	4月15日	「秘跡」 生きるキリストに伴われて歩む	

<お問合せ：carmel-reisei@hotmail.co.jp>

'10年11月～'10年12月まで 黙想会案内 (宇治カルメル会)

1. 聖書深読

一日(午前10時から午後4時)

10月30日(土)

九里 彰神父

12月11日(土)

新井延和神父

2. 一般のための黙想

一泊二日(午後5時～午後4時)

11月20日(土) 神の国が始まる

新井延和神父

3. 水曜黙想(午前10時～午後4時)

11月10日(水) 三位一体のエリザベット

伊従信子師

12月15日(水) 御言葉は人となった

九里 彰神父

4. 召命黙想会(午後6時～午後4時)

11月22日(月)～11月23日(火)

パウロの聖礼アにおける召・挿入

松田浩一神父

5. 待降節黙想(午後5時～午後4時)

12月 4日(土)～12月 5日(日)

渡辺幹夫神父

6. 奉獻生活者の黙想(午後5時～午前9時)

12月27日(月)～1月 5日(水)

新井延和神父

7. 青年のための黙想(午後4時～午後5時) 男女性のため

11月 6日(土)～11月 7日(日)

今泉 健神父

その他皆様が企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします。

*申し込み方法

電話でも受け付けておりますが、できるだけFAXあるいはハガキでお名前と連絡先をご記入の上お申し込みください。なお、お電話でお申し込みの場合、なるべく午前9時～午後5時の間にお願いいたします。

受付が休みになっている時はすぐに返事できませんので、お手数でも後日、改めてお問い合わせくださるようお願い申し上げます。

宇治カルメル会 聖テレジア修道院(黙想)

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12

TEL 0774-32-7016

FAX 0774-32-7457

e-mail carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp



「カルメルの靈性に学ぶ」 ～十字架の聖ヨハネの靈性～

- 1) テキスト：『カルメル山登攀』（ドン・ボスコ社）
（いつからでも参加できます。）

- 2) 日時：毎月一回 14：00～15：30
11月19日（金）第2部16章の6～17章
12月17日（金）第2部18章～19章
土曜日に戻します！
1月15日（土）第2部20章～21章

- 3) 講師：^{くのり}九里 彰神父（カルメル会）

- 4) 場所：カルメル会宇治修道院 信徒会館集会室

《宇治カルメル靈性センター》

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12

Tel：0774(32)7456 Fax：0774(32)7457

召命黙想会

アビラの聖テレジアにおける

イエス・キリスト

(アビラの聖テレジアのキリスト体験から)

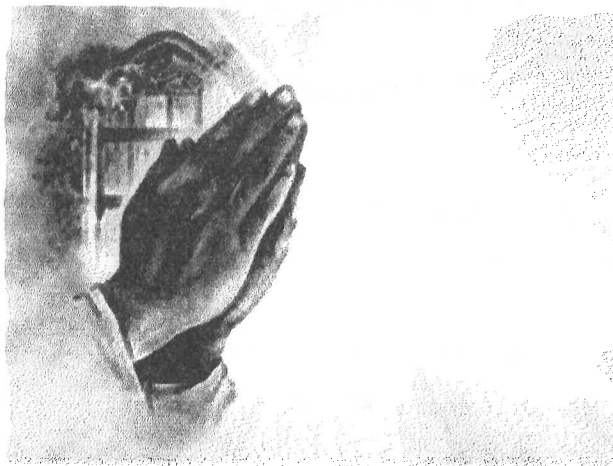
2010年11月22日(月曜日)午後6時(夕食)～

11月23日(火曜日)午後4時まで

場所：宇治聖テレジア修道院(カルメル会宇治修道院内)

指導：松田浩一 神父 (男子跣足カルメル会)

年齢：40歳までの青年男女



*カルメル会宇治修道院の祈りの雰囲気の中で、WYD2011 マドリード大会の保護者の一人であるアビラの聖テレジアの取次ぎを願って召命を考えてみませんか。

持参するもの：聖書、ノート、筆記用具のみ
費 用：一般 6,500円(学生 5,000円)

お申込み締め切り：11月20日(土)

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12

カルメル会宇治修道院 召命係り

Tel 0774-32-7456

Fax 0774-32-7457

E-mail : teresiauji@mountain.ocn.ne.jp



「立ちどまって、ひとりになって、聴いてみよう！」

～都会の中の一泊静修～（2010）

この会は、現代の忙しい社会の中であって、また都会の中であって、神様との静かなひとときを過ごすために企画しました。イエス様は、「わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。」（マタイ28：20）と言われました。

ともにいるイエス様とのひとときを、都会の真ん中で過ごしてみたいかかでしょうか。

今年、年間共通テーマとして、『混沌の時代を生きる道筋を探して』としました。

このテーマを通して、聖書のみ言葉やそれを生きるカルメルの聖人たちの言葉を通して、キリストの光を受け、混沌の時代を生きる私たちが、生きるための道筋を探していくことができますように・・・

第9回	10月30日（土）	小さき道、幼いイエスの聖テレジア	Sr.ベアトリス （宣教カルメル修院）
第10回	11月23日（火） 祝日	主が教えてくださった新しい道の道、 『私が愛したように』	三上和久神父（三馬修道院）

※第1回 ～8回終了

- * 時間 AM10:00～PM4:00
- * 場所 カトリック日比野教会(地下鉄・名城線日比野下車徒歩約5分) *聖テレジア幼稚園隣接
- * 参加費 1,000円
- * 持ってくるもの 聖書、筆記用具、ロザリオ、弁当
- * 定員 約30名
- * プログラム
 - 10:00～ 祈り・導入・黙想
 - 10:30～ 講話【1】
～（赦しの秘跡または面接）
 - 12:15～ 昼食
～（赦しの秘跡または面接）
 - 13:30～ 講話【2】
 - 14:45～ ミサ
 - 15:30～ 茶話会・分かち合い
 - 16:00 終了

申し込みは、下記の住所へ\ガキかFAXで、氏名・住所・TEL、(所属教会)を記載の上、開催日の3日前までに必着のこと。なお、日比野教会で葬式などがある場合は、中止となりますので、ご了承下さい。

☆ 名古屋カルメル霊性センター

〒456-0062 名古屋市熱田区大宝4-5-17 カルメル会日比野修道院 FAX052-671-1825
 一日静修係 〒465-0058 名古屋市名東区貴船3-2115 小林 厚・晃子
 TEL・FAX052-701-3685

聖書深読センターのご案内

- 1 東京・・・上野毛聖テレジア修道院（黙想）の案内をご覧ください。
- 2 宇治・・・宇治聖テレジア修道院（黙想）の案内をご覧ください。

通信深読について

通信深読は、現在何箇所かで行われているようです。そのうち2箇所が新たに参加可能なので、紹介します。

1 朝日カルチャーセンターの通信講座

参加者は、「個人素読」（記号、全、所感、近況報告などを書くB5用紙）を提出。講師のコメントが記入されて返送される。参加者全員の「個人素読」と「素読表」そして解説が冊子になって送られる。

費用：6ヶ月 18,900円（4、7、10、1月に納入） 継続の場合は 16,900円

講師：九里彰師（奇数月） 新井延和師（偶数月）

問い合わせ：〒163-0278 東京都新宿区西新宿 2-6-1 新宿住友ビル

私書箱 21号 朝日カルチャーセンター通信講座部

電話 03-3344-2527（直通）

2 ミニ深読

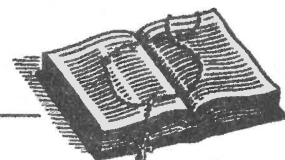
グループで2、3時間かけて聖書深読法の一部を行います。

聖書深読黙想会に参加経験のある方に限ります。

遠方に、参加希望者が多数いる場合には、有光、またはSrパウリーナが指導に行くことも可能です。

問い合わせは「聖書深読センター」事務局 Srパウリーナまでご連絡下さい。

- ◎ 聖書深読に関してご質問のある方は、下記聖書深読センターにお問い合わせ下さい。



聖書深読センター

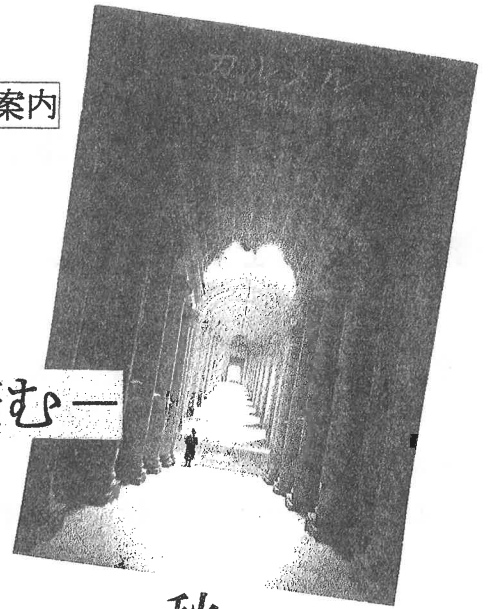
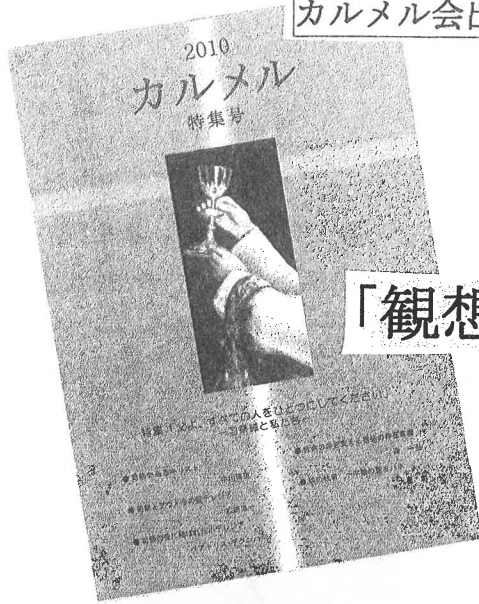
〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12 カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

所長：奥村一郎神父 事務局長：新井延和神父 連絡先：Srパウリーナ

TEL 0774-32-7016 FAX 0774-38-2543

Eメール carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp

カルメル会出版物のご案内



「観想」を読む

2010 秋 No.338

● 目次 ●

愛の断章 (17)	僕たちを忘れないで	「小さい道」の巡礼者 テレーズの修練者——三位一体のマリー	エディット・シュタインの改宗までの道程 ベアトリス・デクンハ	聖性への招き 十字架の聖ヨハネに導かれて マリー・エウジェンヌ 編・訳 伊従信子	「どこにお隠れになったのですか」 ——十字架の聖ヨハネに見る靈的旅路	三位一体のマリアの歌 (1) 私は愛に渴いている	カルメル会の霊性の源流を探して ——その「会則」に見る生活	馬屋の靈性 (7) 「恵み溢れる聖マリア」
奥村一郎	森みさ	中山眞里	ベアトリス・デクンハ	マリー・エウジェンヌ 編・訳 伊従信子	九里 彰	ペトロ・アロイジオ	中川博道	高橋重幸
57	51	44	36	27	21	15	8	2

購読のご案内

雑誌「カルメル」はどなたでもご購入できます。(カトリック書店：サンパウロ、ドンボスコ書店等) できます。定価は、一冊 460 円です。

- 送付希望の方は、600 円【内訳 460 円 (+送料 140 円)】を下記へお振込み下さい。
- また、まとめて御購入希望の方は、年会費 (年 5 冊：春夏秋冬号・特集号【460×5=2300 円】、送料分【700 円】) として、3000 円を下記へお振込み下さい。

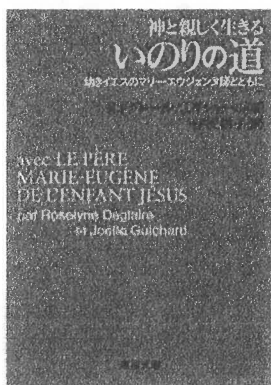
郵便振替：00190-4-195457 跣足カルメル修道会
(お問い合わせは、事務担当竹田まで。)

TEL (03) 5706-8356

新刊紹介

●「テレーズを愛した人びと」

リジューの聖テレーズはカトリック教会で最も親しまれている聖人の一人。この書はテレーズが愛した人びとと、テレーズを愛した人びと11人が、どのように心の深みでテレーズと響き合っていたかを見つめながら、その11の愛の道を洞察しています。(聖母、十字架の聖ヨハネ、パウロ、三木露風、宮沢賢治、マリー・エウジェンヌ【ocd】、マザー・テレサなど)、それぞれの独自の愛が心にのこる一冊の本。 伊従信子著 ¥1400円+税 女子パウロ会 214 ページ



●「神と親しく生きる 祈りの道」

幼きイエスのマリー・エウジェンヌ師とともに
本書で師はわたしたちみんなが呼ばれている聖性の道を示し、神との一致への道へわたしたちを導いてくれます。神を探し求める時、闇につつまれた道程を歩まねばなりません。祈りの道を歩み続けるために光を求める人々の具体的呼びかけにマリー・エウジェンヌ師は自分の体験の実りを本書で分かち合ってくれます。

神との関わりを探し求めている人たちへ
送るメッセージ

現代の狂騒の中で、大切な何かを見失って
いないだろうか・・・ 真理、善、美、生きる意味。

R.ドグレール/J.ギシャール=著

伊従信子=訳 ¥525 聖母文庫 207 ページ

諸所の企画案内



心のいほり

真命山靈性交流センター

リーゼンフーバー神父キリスト教講座

ノートルダム・ド・ヴィ

ノートルダム教育修道女会

※ お知らせ

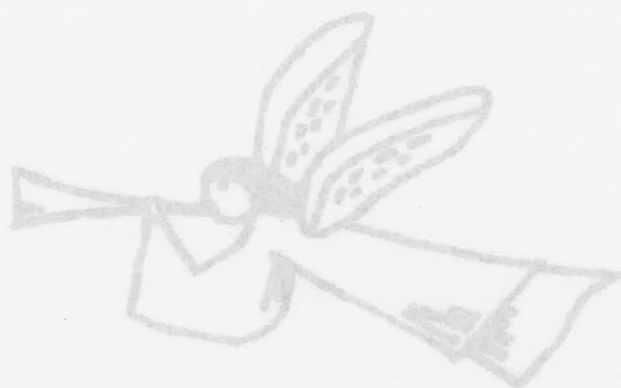
2009年・10号より、諸所の企画記事を編集係りで集約して打ち込みました。

記載には注意を期していますが、詳細は、念のため、各問い合わせ先にご照会ください。

また、「投稿募集」ページも、隔月程度の掲載となります。どうぞご了承ください。

よろしくお願い致します。

内案画金の両部



〇君ノ心のゆ
 一マビサ旅交封露山命真
 聖謝様イスレキ父軒一ハーてにサ一レ
 トウ・ナ・ムセハイ一レ
 会文監謝齊様ムセハイ一レ

☆ 〇君ノ心のゆ

志導5部画金の両部、〇君ノ心のゆ・非〇〇〇〇
 。スレキもなまはすレ謝業の船業謝
 志謝様、心をなすレ謝業主おに謝5
 〇君ノ心のゆ、会謝〇〇武サレ合レ同答、〇君ノ心の
 〇君ノ心のゆ、おビ一ハレ謝業謝様、スレキ
 〇君ノ心のゆ、承てごちさう、をおのりなり謝業
 。をおレ様レ謝業〇君ノ心のゆ

諸所の黙想企画ご案内

※各黙想内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

内観黙想の予定表

先の予定表と若干変わっていますので、開始の曜日や時間などにご注意ください。

◎参加費用は、6泊7日ですべてを含み関西地区の会場は6万円、他地区は6万5千円です。

◎Eメール・ファックス・手紙でセンターに問い合わせてください。電話では取り次いでおりません。

申し込みは10日前迄に完了、お願いします。会場予約準備がありますので。

◎572-0001 大阪府寝屋川市成田東町3-27「心のいほり 内観瞑想センター」藤原神父
FAX 072・802・5026 Eメール fujinao1944@nifty.com
<http://www.com-unity.co.jp/naikan> (ホームページ・アドレス)

◎予約の決まった後に、会場までの詳しい地図などの書類をお送りします。

(★)印の会場では、藤原神父以外の司祭も面接同行する可能性があります。

2010年(6泊7日) 午後2時より 終了日午後2時迄

- ★N5 11/03(水)-11/09(火) 滋賀・唐崎・ノートルダム
- F3 11/20(土)-11/26(金) 福岡・御受難会黙想の家
- K5 12/01(水)-12/07(火) 東京・小金井・聖霊会
- M4 12/10(金)-12/16(木) 兵庫・売布・女子ご受難会

2011年(6泊7日) 午後2時より 終了日午後2時迄

- M1 01/10(日)-01/22(土) 兵庫・売布・女子ご受難会
- K1 01/25(火)-01/31(月) 東京・小金井・聖霊会
- Y1 02/14(月)-02/20(日) 神戸・須磨・ヨハネ
- K2 03/04(金)-03/10(木) 東京・小金井・聖霊会
- M2 04/03(日)-04/09(土) 兵庫・売布・女子ご受難会
- ★N1 04/30(土)-05/06(金) 滋賀・唐崎・ノートルダム

通年テーマ：教父の祈りを学ぶ

祈りの集い（毎回午前10時～午後2時半）

11月11日	大聖グレゴリウス	フランコ神父
12月9日	ロマノ メロドス	Sr. マリア

指導者

フランコ・ソットコルノラ神父

（真命山院長）

ダニエレ サルティ・サルトリ神父

Sr. マリア デ・ジョウルジ

申し込み先

865-0133

熊本県玉名郡和水町1391-7

真命山諸宗教対話・霊性交流

センター

TEL 0968-85-3100

Fax 0968-85-3186

E-mail: shinmeizan@chive.ocn.ne.jp

個人またはグループでの黙想会や研修会も
歓迎いたします。

（要予約）



リーゼンフーバー講座・集いの案内 2010～11年

●キリスト教入門講座

金曜日 18時45分～20時30分
聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール。
どなたでも。聖書に基づきキリスト教の基本テーマを取り扱います。

●キリスト教理解講座

毎月第1・第3・第5火曜日 18時45分～20時30分
聖イグナチオ教会信徒会館3階。キリスト教の基礎知識を持っている方。2年間のコース。信仰理解と信仰生活の深まりを目的とし、キリスト教の中心的テーマを探求します。

●土曜アカデミー 以下の土曜日、

9時30分～12時30分、岐部ホール4階404、
19・20世紀近代・現代のキリスト教関係の
思想・哲学・神学を考察します。思想史とキリス
ト教の関係に関心を持っている方、プログラム
等に関してHP(文末)を見よ。
11月6日、13日、27日、12月4日、11日
1月8日、15日、22日、29日

●坐禅会

月曜日 17時20分～20時10分
木曜日 18時～20時30分
上智大学内 Kultウルハイム1階左の
部屋。但し、10月18日、同21日、12月27日～1月
3日、祝日休み。3回座り、間に講話があります。ど
なたでも。初心者も歓迎。遅刻、不定期の参加も
可。

●坐禅接心

(秋川神冥窟) 一泊2,400円程度
10月29日(金)20時30分～11月3日(水)10時
(上石神井)
2011年2月5日(土)8時30分～6日(日)15時30分
5,900円程度

●ミサ 水曜日 17時10分～18時

上智大学内 Kultウルハイム1階
右小聖堂どなたでも。(但し、8月全休、
10月20日、12月29日、祝日休)

●祈りの集い 下記の土曜日

13時30分～16時
上智大学内SJハウス第5会議室
黙想、講話、ミサがあります。
11月13日、12月11日、
2011年1月15日
ロザリオの祈り 同日16時10分～50分
Kultウルハイム1階右小聖堂

●黙想

【会社帰りの黙想】

毎月第2・第4火曜日 18時45分～20時
聖イグナチオ教会マリア聖堂、どなたでも。
(但し、祝日、10月19日、12月28日は
休。8月24日は Kultウルハイム聖堂)

【お昼の黙想】 毎月第1・3火曜日

10時45分～12時 聖イグナチオ教会
マリア聖堂 但し祝日、2011年1月4日は休み。

【水曜日】 18時～18時30分

上智大学内 Kultウルハイム1階右小聖堂。
どなたでも。但し、祝日休。

●黙想会

11月20日(土)10時～21日(日)15時
3月12日(土)10時～13日(日)15時
上石神井。一泊5900円程度。

●アガペ会

下記の日、説明会(13時30分)と
集い、ミサ(14時～18時)、上智大学
内SJハウス第5会議室 10月16日
(土)、2011年1月22日(土)

●クリスマス会・ミサ 12月18日(土) 16時30分

聖イグナチオ教会マリア聖堂、18
時岐部ホール
4階 要申込。ミサ 12月23日(水)14時～Kultウ
ルハイム聖堂(80人限定)
上智大学内 Kultウルハイム聖堂(80人限定)

上述日程等、変
更の可能性があ
ります。
詳細等は、
下記、リーゼン
フーバー神父様
のホームページ
でご確認
ください。

※リーゼンフーバー神父様HPアドレス

http://www.jesuits.or.jp/~j_riesenhube/

リーゼンフーバー神父キリスト教入門・理解講座

リーゼンフーバー神父キリスト教

入門講座2010年～2011年

日時 毎週金曜日

18時45分～20時30分

- 10/29: 信仰の決断— 支えられて生きる
- 11/05: ミサ祭儀— 神への奉仕と生活の糧
- 11/12: 自己実現と神の意志— 生き方の規範
- 11/19: 人間の弱さ— 罪とは何か
- 11/26: 恵みとゆるし— 神の憐れみを受ける
- 12/03: 愛の心— キリスト教の本質
- 12/10: 隣人愛— 他人の内にイエスに出会う
- 12/17: 希望を持つ勇氣— 未来に向かって歩む
- 01/07: 霊の動き— 福音による生き方
- 01/14: 秘跡の恵み— 毎日を養う信仰
- 01/21: 教会の構造・典礼・歴史— 教会と共に歩む
- 01/28: 信徒・司祭・修道者— 誰もが召されている
- 02/04: 神の言葉— 神との日常的な対話と黙想の仕方
- 02/18: 結婚と独身— 愛の道
- 02/25: 仕事という人間の課題— 社会と教会に寄与して働く
- 03/04: 人間の苦悩— 悪とは何のためか
- 03/11: 死— その実現と克服
- 03/18: 人生の完成— 神の内に生きる
- 03/25: 聖母マリア— イエスと共に生きた方

リーゼンフーバー神父キリスト教

理解講座2010年～2011年

日時 第1・3・5火曜日

18時45分～20時30分

イエス

- 10/05: 受難による救い— イエスの救済的役割
- 10/19: 休み
- 11/02: 休み
- 11/16: 死からの命— 復活の認識・経験・理解
- 11/30: キリストはだれか— キリスト理解の発展
- 12/07: 御子の受肉— 神の子と人の子
- 12/21: 神の内的現存— 人間における聖霊の働き
- 01/18: 三位一体の神— 救いの構造から神内の存在へ

教会

- 02/01: 信仰者の共同体— 教会の本質
- 02/15: 救いのしるしと実現— 秘跡の意味
- 03/01: 憐れみと愛の祝い— 罪のゆるしとミサ
- 03/15: 人間と世界の究極の未来— 終末の約束
- 03/29: 信仰者の原型— 聖書と教会の教えに見られるイエスの母

《場所・お問い合わせ》

聖イグナチオ教会(四ツ谷駅前)

信徒会館3階

アルペホール TEL 03・3263・4584

クラウス・リーゼンフーバー神父

102-8571 千代田区紀尾井町7-1

上智大学SJハウス

電話 03-3238-5124{直通}

-5111{伝言}

Fax 03-3238-5056

上述日程等、変更の可能性があります。

詳細等は、下記、リーゼンフーバー

神父様のホームページでご確認

ください。

※リーゼンフーバー神父様HPアドレス

http://www.jesuits.or.jp/~j_riesenhube/

いのちの泉へ（ノートルダム・ド・ヴィ）

●「いのちの泉へ」 すべての人のための祈りの集い

カルメルの靈性に学びつつ、キリスト者としての靈性を養うための講話と、沈黙の祈りで構成された集いです。カルメルの靈性を、より深めたい方のグループと、若い方、基礎的な信仰を学びたい方のグループがあります。

11月20日(土)
12月11日(土)

申し込み・お問い合わせ

ノートルダム・ド・ヴィ

177-0044

練馬区上石神井4-32-35

TEL(03)・3594・2247

Fax(03)・3594・2254

E-mail notredamedevie.japan@gmail.com

ホームページ(NEW)

<http://www.ndv-jp.org/>

講話 伊従信子
(11月・12月は片山はるひの講話はありません。)

午後2時～午後5時30分位まで、
講話、祈り、分かち合い。
参加費 200円

カルメル会の靈性を受け継ぐノートルダム・ド・ヴィ(いのちの聖母会)は、現代社会のあらゆる場で社会人として働きながら、神への全き奉獻を通して、祈りと活動の一致を生きることを、その精神・理想としています。



ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院

◎所在地

〒520-0106

滋賀県大津市唐崎1丁目3-1

Tel 077-579-7580

Fax 077-579-3804

E-メール karainorind92@mbe.nifty.com

◎交通

JR京都駅から湖西線で三つ目

「唐崎」下車。琵琶湖の方へ徒歩13分

◎日程

A. 8日間の個人指導による黙想

初日は、17時のミサで始まり、最終日は昼食で終わります。

⑧ 11月 2日(火)～11月10日(水)

※①～⑦終了

B. 祈りの体験：週末3日間

(金曜日の夕食～日曜日の昼食)

【神との親しさの中で日常を生きるために】

2010年

⑮ 11月 5日(金)～11月 7日(日)

⑯ 11月26日(金)～11月28日(日)

⑰ 12月10日(金)～12月12日(日)

(他の黙想会が行われている場合があります。)

※①～⑰終了。

C. 講話 黙想(奉献生活者のため)

→終了致しました。

※各黙想内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

◎ 対象：信徒、修道者、司祭、
洗礼を受けていない方、
どなたでも参加できます。

◎霊的同伴者：

菊池 陽子(ノートルダム教育修道女会)

松本 佳子(ノートルダム教育修道女会)

その他 若干名

◎申込み：

1) 名前 2) 住所 3) 電話番号 4) 希望
日程(番号)を書いて郵送、または、Faxで
「黙想係」松本佳子へ申し込んでください。
唐崎修道院への案内地図の必要な方は、
その旨を書き添えて下さい。

いずれの場合も、10日前までに申し込んで
ください。先着順11名です。

その他：

◎ 受付(チェック・イン)：いずれの場合も、
初日の15時から16時45分まで。

◎ 問い合わせ：電話 または、E-メールを
御利用下さい。

その他、グループでの黙想会や研修会の
ために唐崎修道院をご利用なさりたい場合
は、ご連絡下さい。

『靈性センターニュース』 郵送ご希望の方

下記まで、郵送ご希望の月数分×220円を現金で送ってください。切手では受け付けておりません。これは、あくまでも郵送代実費です。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

カルメル会上野毛修道院 「靈性センター事務局」

「上野毛靈性センターへの献金」のお願い

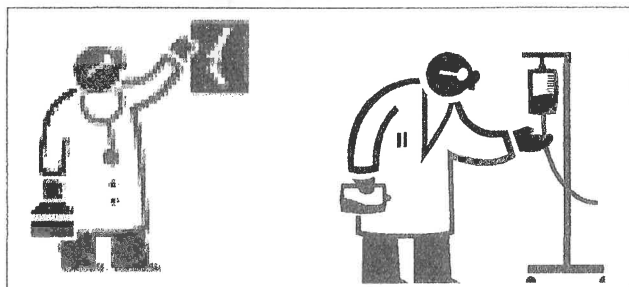
「靈性センターニュース」は、現在、上野毛靈性センターで編集、印刷、製本、発送等を行っておりますが、経費はすべてカルメル会で負担しております。読者の皆様のご理解とご協力をいただければ、幸いです。

献金される方は、下記の口座へお振り込みください。

郵便番号口座： 00110-4-297250

加入者名： カルメル靈性センターニュース

なお通信欄へは「献金」とご記入ください。これは、上記の郵送代ではなく、献金として取り扱わせていただきます。



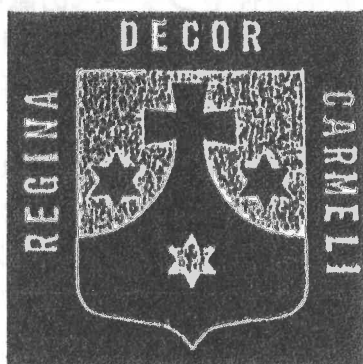
編集後記

先日、某女子修道院から私宛に食べ物が送られてきた。宛名を見ると、「九里医院長様」となっている。「ハハーン、シスターは、宇治修道院は高齢者が多く、歩行器を使用する人、杖をつく人、認知症の人など、病人ばかりなので、私を病院長に見立てて、九里医院長様と書いてきたのだな。シスターもけっこうふざけるのだな」と半ば感心しながら、御礼の電話をかけた。

最初に「九里医院の院長です」と挨拶しようと思ったが、あまり悪ふざけをしてはいけないと、普通に話をし始めたら、どうも話がおかしい。ちぐはぐな会話を通して判明したことは、宛名はシスターが書いたのではなく、シスターに電話で頼まれたお店の者が書いたということであった。何のことはない。「クノリインチョウサマ」を「クノリイインチョウサマ」と、単に聞き間違えただけの話であった。

「ウーン、聞き取りは日本人同士でも難しいのだ」と再認識させられた。これは笑い話ですむが、聞き間違えが誤解を生み、争いが生じ、はては戦争へと発展することもあるかもしれない。

(P. 九里)



あなたにもできる

「霊性センターニュース」の製本が、毎月第四火曜日（原則）に行われていますが、製本作業には、どなたでも参加していただくことができます。初めての方、不定期参加の方も、大歓迎です。一緒にご奉仕をお捧げしましょう！！

「12月号」製本日 11月30日（火） 上野毛教会信徒会館ホール1階
午後1時半頃から～

※参加希望の方は、念のため、製本日をご確認下さい。霊性センター係

TEL 03・3704・2171